

第2回「電通大（首都圏）地域コア運営委員会」開催報告

■日時 平成25年10月11日（金）10:00～11:30

■場所 電気通信大学 産学官連携センター4階 415会議室

■議題 電気通信大学の新たな事業展開について、スーパー連携大学院の活動状況について、2013「電通大（首都圏）地域コアフォーラム」開催計画について、地域運営委員会からの検討課題について

■出席者 10名（企業関係者5名、大学関係者5名）

文部科学省大学間連携共同教育推進事業「産学官協働ネットワークによるイノベーション博士養成と地域再生」の、首都圏・多摩地区における地域コア運営委員会の本年度2回目となる会議を、上記のとおり開催しました。

地域コアフォーラムの開催内容案として、梶谷学長からの基調講演、本学の産学官連携活動の紹介、スーパー連携大学院の進捗状況と受講生紹介、スーパー連携大学院受講生による発表（共同研究事例）、スーパー連携大学院を活用した社会人博士育成と採用の取組み事例、企業による共同研究ニーズの紹介等が提案されました。

地域との連携活動に関しては、「社会人の学び直し」についてスーパー連携大学院を利用した仕組みや、スーパー連携大学院の活動につながる仕組みを考え、また地域学生のUターン就職支援について本学と他の地域企業とのかかわり方を考えていくことが確認されました。

その他、以下のような意見交換が行われました。

- 学部優秀者が企業で4年間程度鍛えられると、素晴らしく優秀な社員になる。それ以上の人材に、スーパー連携大学院で育てることができるのがポイントである。
- アジアの大学も最近伸びていて、例えばシンガポール大学では多様性を持つことで成長しているのではないかと考えている。企業へのインターンシップのほかに、このような大学との連携は企業にとってもメリットがある。
- フォーラムにおける受講生による発表は、成立済みの共同研究の紹介よりも、修士から博士へ進む受講生が研究提案を行うステージとして活用したい。
- フォーラム全体の意図として、企業にスーパー連携大学院を知ってもらうことが中心であるため、企業ニーズを大学教員に紹介する必要性はあまり高くはないとも考えられる。むしろ、受講生の発表に絡めて教員からの発表があってもよい。
- 「小さくても光る大学」を目指した結果、電通大の卒業生はこういう分野、こういう人材なんだ、というブランドが形成されることが望ましい。
- 本学の教員は共同研究にける意気込みが強いと感じている。オンリーワンの分野でその意気込みと研究力を活かしていけば、関東圏での知名度や評価をもっと上げることができるはずだと思う。
- スーパー連携大学院の科目にビッグデータ関連の科目をそろえ、データサイエンティスト養成コースを設置するのも面白い。
- 各地域でどういう課題があるのかの理解・解決や、首都圏地域の課題はどうなっているのかの掘り下げに、もっと時間を使って議論を行いたい。連携している価値がそこにあるはずである。

（作成 電気通信大学スーパー連携大学院推進室 宇梶純良）